

第1回 筑後川流域水懇談会 議事要旨

日時：令和7年3月13日（水）15:00～17:00

場所：筑後川河川事務所 第1・2会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 筑後川流域水懇談会の設立趣旨と規約

事務局より筑後川流域水懇談会の設立趣旨を説明

筑後川流域水懇談会 規約について承認を得る

4. 議事

(1) 話題提供

- ・「気候変動について」

九州大学大学院工学研究院 准教授 丸谷 靖幸

- ・「ネイチャーポジティブについて」

九州大学大学院農学研究院 教授 鬼倉 徳雄

(2) 筑後川流域の現状と課題

事務局より筑後川流域の現状と課題について説明

(3) 意見交換（主な意見）

○久留米市 原口市長

- ・寺内ダム再生事業の早期完成を願う。
- ・今後気候変動に伴い、雨量の増加が見込まれていることを考慮すると流域全体の安全性の観点から新規ダムの整備なども選択肢に入れていただきたい。まずは流域自治体含め全体でしっかりすべきことをやった上で、流域全体の総意として、国にお願いしたい。

○佐賀市 坂井市長

- ・国による抜本的な対策も必要不可欠。
- ・次期整備計画においては、巨勢川調整池の増強、蒲田津排水機場の能

カアップ、中心市街地の被害軽減に役割を果たす大規模な貯める対策などの内水対策についても国のより一層の関与の検討をお願いしたい。

- ・総合水管理の考え方から事前排水後の保水・充水への対応の拡大、市街地水路の水環境の改善、緊急時の水優遇などの治水・利水・環境を一体的に捉えた取組みも進める必要がある。
- ・地域にとってメリットとなるような観点からの議論もお願いしたい。

○朝倉市 林市長

- ・朝倉3ダム、ダム群連携事業などにより下流沿川の被害軽減に大きく寄与。
- ・ダムなどの社会資本整備の大切さを確信している。今後、人口減少や生産基盤の変化を視野に入れた施策の検討が流域全体としての課題になっている。
- ・既存3ダムのさらなる有効活用の視点から治水機能の強化を軸とし、利水機能の充実も図る効果的な活用策を検討する必要がある。
- ・総合水管理（治水・利水・環境）を最大限に発揮できるような流域全体の検討を具体化することが理想。
- ・脱炭素の役割を担う視点として、カーボンニュートラル計画を検討していただく必要があると思う。是非お願いしたい。

○うきは市 権藤市長

- ・河川のことを知ってもらう・考えてもらう場を作ることも自治体にとって大切なことであり、引き続き支援を願う。
- ・大石分水路でかわまちの取り組みを行っていただき、市民の皆様を始め様々な関わりのある方々が増えてきている状態。
- ・流域総合水管理の考え方から、流域治水だけでなく流域環境にも今後は力をさいていく。
- ・今後うきはでは遊水地の整備も見込まれるため、ビオトープなど自然を取り入れた形にすることで生物多様性を守る、ネイチャーポジティブの考え方に乗っ取った整備を進めていただきたい。

○大刀洗町 中山町長

- ・筑後川本川の水位を下げる対策についても検討いただきたい。
- ・低平地特有の内水被害がある。対策としてクリーク事前排水・田んぼダム等を行っている。

- ・筑後川の水位を下げる対策についても検討して欲しい。

○筑前町 田頭町長

- ・田んぼダムを実施する中で、雨で田んぼが冠水すると、ジャンボタニシが活発に活動することにより水稲害が起こり、田んぼダム促進の弊害になっているが、田んぼダムを促進していくためのタニシ対策ができれば流域治水に貢献できると思っている。
- ・ため池の活用を推進していきたい。

○東峰村 眞田村長

- ・筑後川の水位を下げるためには、村の中で留めて計画的に流すことが大事。
- ・森林整備等を行い、筑後川の流域治水に対応できればと思っている。

○筑後川流域対策協議会 吉田事務局長

- ・当協議会では水資源開発は流域優先を原則とし、筑後大堰建設事業に関する基本協定書を遵守していただくこと。
- ・ダム群連携事業・寺内ダム再生事業について、丁寧な地元対応を行い、早期完成に向けて必要な予算確保と着実な事業遂行を行っていただくこと。
- ・現在施行中の3ダム総合プール運用について、早期本格運用に向けた推進を図っていただくこと。併せて筑後川水系全体での効率的な水運用の検討に取り組んでいただくこと。
- ・河川管理施設や水資源開発施設の長寿命化・耐震化を推進していただくこと。
- ・有明海を含む筑後川流域における水源地や河川や有明海の環境保全及び漂着ゴミ対策などの取り組みに対して財政支援をはじめ人的・技術的支援など様々な形の支援を行っていただくこと。

○九州河川協力団体連絡会議流域世話人 川島 睦己

- ・これからも筑後川の清らかな流れと豊かな自然が織りなす良好な河川の空間・景観を地域住民のみなんで利用・活用できればと思っている。
- ・筑後川の豊かな自然環境を子供の世代、孫の世代まで継承していけるような活動をしていきたい。

(4) 今後のスケジュール
事務局より今後のスケジュールを説明

(5) その他

5. 閉会